

科目名		建築積算				
担当教員		目黒 敬也		実務授業の有無	○	
対象学科		建築士学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		建築物のコストの成り立ちを理解する。 設計でも施工でも避けて通ることのできない業務であるため、実践に即した形で理解を進める。 テキストの例題を理解した後に演習問題を解き理解度を確認する。理解の足りていない部分を補った後に「確認テスト」で最終確認を行う。				
学習目標 (到達目標)		各工種のうち、これだけは知っておかねばならないという工種に絞り、積算の仕方を体得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		建築実務テキスト「建築積算」（市ヶ谷出版社） ワークシート、演習問題				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	建築積算概要		建築積算とは何か。建築積算の決まり事や役割を理解する。			
2	積算実践（土工・地業）		根切、埋戻し、地業の関連がわかり、土工の数量が拾える。 (ワークシートの記入、提出)			
3	積算実践（コンクリート）		①基礎②柱③梁④床板（スラブ）⑤壁のコンクリートの数量が拾える。(ワークシートの記入、提出)			
4	積算実践（型枠）		①基礎②柱③梁④床板（スラブ）⑤壁の型枠の数量が拾える。 (ワークシートの記入、提出)			
5	積算実践（仕上）		もっとも関わる頻度が多い内外装仕上の数量が正確に拾える。(ワークシートの記入、提出)			
6	演習問題		演習問題（1～8）を解き、理解度を確認する。			
7	確認テスト		総まとめのテストを行う。			
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
ワークシート提出	確認テスト			解説を聴きながら、ワークシートを作成し各テーマについて学習する。必ず電卓を持参すること。 積算はコストを左右する重要な業務でありながら、社会では「できて当たり前」と考えられている。各テーマごとの演習が重要なので、真剣に取り組んでほしい。 (※自筆ワークシートは確認テストに持込可とする。)		
30 %	70 %	%	%			
実務経験教員の経歴		建築大工として約5年実務に携わる				